「妙高市民の心」作文　優秀作品集（高学年の部）

最優秀賞

家族との時間をつくろう

新井中央小学校６年　鈴木　祈里

私は最近、料理作りにはまっています。きっかけは、家庭科の調理実習で作ったゆで野菜です。嫌いなものが多い私は、学校で出る野菜を食べるのにも時間がかかるし、家で出された野菜はほぼ食べていませんでした。だけど、自分で作って食べたゆで野菜がおいしくて、お母さんにも作ってあげたいと思いました。そして、次の日にさっそくサプライズでお母さんにゆで野菜を作ることにしました。包丁を使うことは何回かあったけれど一人で切るのは少し怖かったです。何とか学校で作った通りに完成した時、とても達成感がありました。お母さんが帰ってくると、ゆで野菜を見て感激していました。一品できていると夕飯が早くなるので、私もうれしかったです。時間ができた分、話もたくさんできました。私は、お母さんとその日の中で楽しかった出来事を質問し合ったり、次の日の予定を話し合ったりする時間が大好きです。

一週間の中で、火曜日と水曜日と木曜日に習い事があり、急いでおにぎりや軽いご飯を食べる日が続きます。だから、習い事がない日は、ちゃんと栄養のある食事をとることが大事だと思いました。

今までは、リビングでテレビをつけたまま食べていましたが、今ではそういったことはなくなりました。何かを見ながら食べるよりお話をしながら食べる方が楽しいです。

ゆで野菜だけでなく、いため野菜やたまご焼きを作れるようになりましたが、オムライスなどのメイン料理を作れるようにもなりたいです。それは、お母さんが疲れているとき、私が代わりに料理を作ってあげたいからです。

ご飯を作ることはとても大変です。疲れていると気持ちも暗くなります。私は最近、せんたくやそうじなど、できることが増えました。だからこれからは、当たり前に任せるのではなく、手伝えるときは自分から進んでやりたいです。そして、家族と協力して、健康で楽しい生活を送りたいです。

優秀賞

祖母と楽しい毎日を

斐太北小学校６年　阿部　美春

私は、やさしく、おもしろい祖母がすごく好きです。また、祖母のつくる金ぴらごぼうも大好きです。でも、最近、祖母は、私の大好きな金ぴらごぼうを作らなくなって、きました。また、夕食時には、一人で畑に行ったり、同じことを何回も言ったりしています。

前の祖母とは、少し変わってしまいました。でも、私は、何回も同じ話を聞くのは結構楽しいと思い始めています。始めの頃は、「もうその話聞いたよ。」と止めていたりもしていました。しかし、祖母の楽しそうな声とおもしろい話を聞いていくたびに、私は昔の世界に入りこんだように、楽しく聞くようになりました。

私は祖母と叔母といっしょにやる花札もすごく好きです。祖母は、花札になると何さいも若がえった様に、計算や頭の回転が速くなります。負けたときにいう「あぁー」も勝ったときに言う、「よしっ。」というリアクションも私はおもしろくて、大好きです。

しかしそのままではまずいと思ったのか祖母がのうトレの本を注文しました。私は先生になって祖母と一緒にのうトレをしました。祖母は中々できなくて、私が一生けん命説明するも分かってくれないときがありました。自分の言葉選びのセンスのなさにイラついてしまったりもしたけど、祖母の珍回答で、そんな気持ちもとんでいってしまいました。私はやはり、おもしろい祖母が好きだなと思いました。

私は祖母が料理をつくってくれなくなった今、今度は私がおいしい料理をつくって祖母を喜ばせることができるといいなと思いました。また、ときには、イラついてしまうときもあるかもしれないけど、それを笑いに代えて家族みんなで楽しく過ごせていけたらいいなと思います。

優秀賞

お祭りでの思い出

妙高高原北小学校６年　涌井　聡太朗

　僕が小学五年の時、お祭りのリーダーとして、真ん中で太鼓を叩いた。緊張はしたけれど、うまくお客さんの目の前で大きな間違えをせずに叩けた。でもソロで打つ曲は、ぼくにはまだ難しくて叩けなかった。ぼくはとてもくやしかった。「来年は、ソロを正確に叩けるようにしたい。」と思っていた。

　しかし今年は、コロナウイルスで、お祭りは中止になった。それを聞いたときは、「最後なのに発表できず悲しい」と思った。ただ僕は、まだソロが叩けない。だから、発表する場がなくてもがんばろうと思った。練習でも先生に大切なことを教えてもらいつつ、がんばった。

　お祭りが中止になっても、まだチャンスがある。先生が「動画を撮って、それをインターネットで公開して、みんなに見てもらうということも考えている。」と言っていた。動画はまだ撮っていない。ということは、ソロを完成させるための時間はまだある。たとえ大勢が見なくても、一人が観て、さらにもう一人と増えていくとうれしい。

　さらにコロナウイルスが落ち着けば、この秋には芸能祭が行われる予定だ。この芸能祭は地域の文化発表の場であり、毎年たくさんの団体が参加する。祭りと同じくらい、地域の大切な行事の一つだ。その時の観客は、祭りの時と違って、知っている人も多く、別の緊張感がある。もちろん、緊張しているのは、僕の同級生をはじめ、小さい子は二、三才までいる。みんなそれぞれ緊張しているはずだ。そのメンバーをとりまとめるのはリーダーの仕事だ。太鼓の技術だけでなく、チームを一つにまとめることも重要だ。

　これらの経験は、今仲間と一つになるだけでなく、大人になっても忘れられない思い出になる。きっと地域と僕をつなげてくれるはずだ。僕が太鼓をがんばる事は、地域とのつながりをより深くするだろう。それが地域を大切にし、盛り立てていくことだと考える。